

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月12日

【四半期会計期間】 第105期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 群栄化学工業株式会社

【英訳名】 Gun Ei Chemical Industry Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 有田 喜一郎

【本店の所在の場所】 群馬県高崎市宿大類町700番地

【電話番号】 027-353-1818(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員コーポレート本部長 丸山 克浩

【最寄りの連絡場所】 群馬県高崎市宿大類町700番地

【電話番号】 027-353-1810

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員コーポレート本部長 丸山 克浩

【縦覧に供する場所】 群栄化学工業株式会社東京支店  
(東京都中央区京橋1丁目14番4号)

群栄化学工業株式会社大阪支店  
(大阪市北区芝田2丁目2番17号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第104期 第2四半期 連結累計期間	第105期 第2四半期 連結累計期間	第104期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (百万円)	12,256	14,340	25,194
経常利益 (百万円)	1,068	1,542	2,451
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	716	1,052	1,607
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,080	1,021	2,602
純資産額 (百万円)	42,494	44,425	43,750
総資産額 (百万円)	49,536	52,675	51,984
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	107.79	158.71	242.06
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	82.7	81.5	81.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,754	735	3,567
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	520	25	806
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	895	381	1,310
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	7,744	9,221	8,825

回次	第104期 第2四半期 連結会計期間	第105期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	60.13	71.65

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日）における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に対する各国の拡大防止策の効果や米国・中国の経済活動正常化による回復傾向があったものの、7月以降は変異株による感染症再拡大の影響により引き続き厳しい状況で推移いたしました。先行きはワクチン接種の促進など感染拡大の抑制による経済活動の回復が期待されるものの、依然として不透明な状況であります。

このような状況のもと、当社グループは、市場、顧客ニーズの探索に注力し、これまで培ってきた当社グループの技術を活かした提案型営業活動の強化に努めました。またIT技術を活用した働き方改革や業務改善に取り組み、更なる経営基盤の強化を図ってまいりました。

その結果、当社グループの売上高は、前年同期比17.0%増加の14,340百万円となりました。利益面では、原材料価格の高騰の影響を受けましたが、前年同期からの売上高の回復、また、高付加価値製品の拡販等により、営業利益は前年同期比42.8%増加の1,386百万円、経常利益は前年同期比44.3%増加の1,542百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比46.7%増加の1,052百万円となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### [ 化学品事業 ]

化学品事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期と比較し総じて回復基調となりました。半導体関連及び液晶関連向け樹脂は、国内外の需要拡大により高水準を維持いたしました。自動車関連向け樹脂は、足下では部品不足による減産の影響があるものの、建設機械及び工作機械向け樹脂と同様に昨年度後半より回復基調で推移いたしました。以上の結果、売上高は前年同期比19.7%増加の11,768百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比41.5%増加の1,241百万円となりました。

#### [ 食品事業 ]

食品事業においては、新型コロナウイルス感染症と夏場の天候不順の影響があったものの一部飲料向け製品が回復したこと及び原材料価格高騰分の価格是正を行った結果、売上高は前年同期比6.5%増加の2,448百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比595.1%増加の64百万円となりました。

#### [ 不動産活用業 ]

不動産活用業は、ほぼ前年並みで推移した結果、売上高は前年同期比0.7%増加の123百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比5.4%減少の79百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末と比べ691百万円増加し、52,675百万円となりました。これは、主に売上高の増加による売上債権の増加と原材料価格の高騰による棚卸資産の増加及び有形固定資産の増加によるものです。

負債合計は前連結会計年度末と比べ16百万円増加し、8,249百万円となりました。これは、確定給付企業年金への移行による退職給付に係る負債の減少や法人税等の支払による未払法人税等の減少があったものの、売上増加及び原材料価格高騰による仕入債務の増加によるものです。

純資産合計は前連結会計年度末と比べ675百万円増加し、44,425百万円となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加したことによるものです。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、735百万円の収入となり前年同四半期に比べ1,019百万円の収入の減少となりました（前年同四半期1,754百万円の収入）。これは、主に売上債権が増加したこと及び確定給付企業年金への移行に伴う拠出によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、25百万円の収入となりました（前年同四半期520百万円の支出）。これは、主に有価証券の償還による収入が購入による支出を上回ったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、381百万円の支出と前年同四半期に比べ513百万円の支出の減少となりました（前年同四半期895百万円の支出）。これは、主に長期借入金の返済による支出が減少したことによるものです。

この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、前年同四半期末に比べ1,476百万円増加し、9,221百万円となりました。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は659百万円であります。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,621,100
計	17,621,100

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,998,308	8,998,308	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	8,998,308	8,998,308		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年9月30日		8,998		5,000		7,927

## (5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 三井化学株式会社退職給付信託 口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	578	8.7
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	542	8.2
群栄化学取引先持株会株式会社	群馬県高崎市宿大類町700	536	8.1
株式会社群馬銀行 (常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行)	群馬県前橋市元総社町194 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	304	4.6
株式会社横浜銀行 (常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行)	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目 1-1 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	245	3.7
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタート ラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	232	3.5
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	212	3.2
東京応化工業株式会社	神奈川県川崎市中原区中丸子150	168	2.5
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 株式会社日本カ ストディ銀行)	東京都千代田区大手町1丁目5番5号 (東京都中央区晴海1丁目8番12号)	160	2.4
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	158	2.4
計		3,139	47.4

(注) 1. 上記のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 542千株

株式会社日本カストディ銀行(信託口) 212 "

2. 株式会社日本カストディ銀行(三井住友信託銀行再信託分・三井化学株式会社退職給付信託口)の所有株式数578千株は、すべて退職給付信託分であります。

3. 上記には、自己保有株式2,370千株は含まれておりません。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,370,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,591,600	65,916	
単元未満株式	普通株式 36,708		
発行済株式総数	8,998,308		
総株主の議決権		65,916	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権5個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄には自己保有株式92株が含まれております。

## 【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 群栄化学工業株式会社	高崎市宿大類町700	2,370,000		2,370,000	26.3
計		2,370,000		2,370,000	26.3

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## (1) 役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役 執行役員コーポレート本部長	取締役 執行役員管理本部長	丸山克浩	2021年7月1日

(注) 本異動は2021年7月1日付の組織変更に伴うものであります。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、赤坂有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	6,740	7,836
受取手形及び売掛金	7,571	8,013
有価証券	4,400	3,100
商品及び製品	2,098	2,092
仕掛品	729	825
原材料及び貯蔵品	1,177	1,396
その他	222	214
貸倒引当金	3	2
<b>流動資産合計</b>	<b>22,938</b>	<b>23,477</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	22,865	22,834
減価償却累計額及び減損損失累計額	16,607	16,736
建物及び構築物(純額)	6,257	6,097
機械装置及び運搬具	32,529	32,696
減価償却累計額及び減損損失累計額	29,439	29,828
機械装置及び運搬具(純額)	3,090	2,868
土地	7,969	7,969
リース資産	138	789
減価償却累計額及び減損損失累計額	54	75
リース資産(純額)	84	714
建設仮勘定	513	676
その他	3,130	3,111
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,679	2,684
その他(純額)	451	427
<b>有形固定資産合計</b>	<b>18,366</b>	<b>18,753</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	333	259
その他	79	81
<b>無形固定資産合計</b>	<b>412</b>	<b>340</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	9,018	8,881
その他	1,322	1,325
貸倒引当金	73	102
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>10,267</b>	<b>10,105</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>29,046</b>	<b>29,198</b>
<b>資産合計</b>	<b>51,984</b>	<b>52,675</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	3,720	3,988
未払金	1,341	959
未払法人税等	472	303
賞与引当金	388	407
その他	136	201
流動負債合計	6,059	5,861
<b>固定負債</b>		
環境対策引当金	5	5
固定資産撤去引当金	22	22
退職給付に係る負債	1,508	964
その他	638	1,396
固定負債合計	2,174	2,388
負債合計	8,233	8,249
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	25,690	25,690
利益剰余金	15,997	16,784
自己株式	6,227	6,228
株主資本合計	40,461	41,247
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,662	1,596
為替換算調整勘定	68	85
退職給付に係る調整累計額	11	10
その他の包括利益累計額合計	1,743	1,692
非支配株主持分	1,546	1,486
純資産合計	43,750	44,425
負債純資産合計	51,984	52,675

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	12,256	14,340
売上原価	9,424	10,889
売上総利益	2,832	3,451
販売費及び一般管理費	1 1,861	1 2,065
営業利益	970	1,386
営業外収益		
受取利息	24	15
受取配当金	57	80
受取補償金	-	35
その他	18	40
営業外収益合計	100	170
営業外費用		
支払利息	0	5
為替差損	-	5
その他	1	3
営業外費用合計	2	14
経常利益	1,068	1,542
特別利益		
その他	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	4	6
貸倒引当金繰入額	-	29
特別損失合計	4	35
税金等調整前四半期純利益	1,064	1,507
法人税、住民税及び事業税	260	270
法人税等調整額	30	165
法人税等合計	291	436
四半期純利益	773	1,070
非支配株主に帰属する四半期純利益	56	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	716	1,052

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
四半期純利益	773	1,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	478	69
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	177	21
退職給付に係る調整額	4	1
その他の包括利益合計	306	49
四半期包括利益	1,080	1,021
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,095	1,000
非支配株主に係る四半期包括利益	15	20

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,064	1,507
減価償却費	749	723
のれん償却額	74	74
賞与引当金の増減額(は減少)	31	19
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1	544
受取利息及び受取配当金	81	95
支払利息	0	5
売上債権の増減額(は増加)	856	440
棚卸資産の増減額(は増加)	68	304
仕入債務の増減額(は減少)	587	268
その他	131	125
小計	1,910	1,088
利息及び配当金の受取額	99	92
利息の支払額	0	5
法人税等の支払額	253	438
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,754	735
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	500	1,101
有価証券の償還による収入	600	1,700
有形固定資産の取得による支出	1,012	611
無形固定資産の取得による支出	8	13
投資有価証券の取得による支出	0	501
投資有価証券の売却及び償還による収入	400	552
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	520	25
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	300	-
自己株式の純増減額(は増加)	250	1
配当金の支払額	268	264
非支配株主への配当金の支払額	76	79
その他	-	36
財務活動によるキャッシュ・フロー	895	381
現金及び現金同等物に係る換算差額	79	15
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	259	395
現金及び現金同等物の期首残高	7,485	8,825
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 7,744	1 9,221

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
(会計方針の変更) 「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
運送・保管料	442百万円	492百万円
給料	312	330
賞与引当金繰入額	117	131
退職給付費用	29	27
減価償却費	67	64
研究開発費	208	285

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金	7,159百万円	7,836百万円
有価証券	2,800	3,100
計	9,960	10,937
預入期間が3か月を超える定期預金	515	515
運用期間が3か月を超える有価証券	1,700	1,200
現金及び現金同等物	7,744	9,221

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	268	40	2020年3月31日	2020年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月30日 取締役会	普通株式	265	40	2020年9月30日	2020年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月25日 定時株主総会	普通株式	265	40	2021年3月31日	2021年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月28日 取締役会	普通株式	331	50	2021年9月30日	2021年12月2日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には記念配当10円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品事業	食品事業	不動産活用業	
売上高				
外部顧客への売上高	9,833	2,299	122	12,256
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	9,833	2,299	122	12,256
セグメント利益	877	9	84	970

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計 (注)
	化学品事業	食品事業	不動産活用業	
売上高				
外部顧客への売上高	11,768	2,448	123	14,340
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-
計	11,768	2,448	123	14,340
セグメント利益	1,241	64	79	1,386

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容  
 (差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
顧客との契約から認識した収益		
化学品事業	9,833	11,768
食品事業	2,299	2,448
その他の源泉から認識した収益		
不動産活用業	122	123
合計	12,256	14,340



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	107円79銭	158円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	716	1,052
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	716	1,052
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,651	6,628

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(剰余金の配当)

第105期(2021年4月1日から2022年3月31日まで)中間配当については、2021年10月28日開催の取締役会において、2021年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	331百万円
1株当たりの金額	50円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2021年12月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

群栄化学工業株式会社  
取締役会 御中

赤坂有限責任監査法人

東京都港区

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 勉

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 荒川 和也

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている群栄化学工業株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、群栄化学工業株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認

められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。